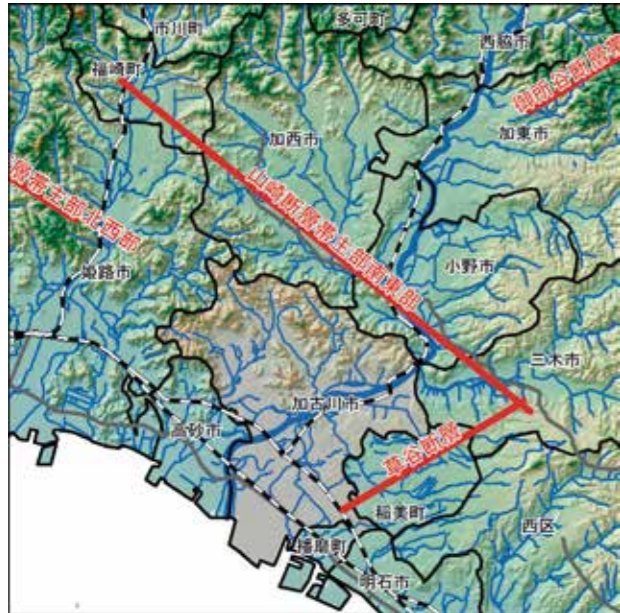


4 内陸活断層型地震について

内陸活断層型地震



活断層の出典: 独立行政法人 防災科学技術研究所 地震ハザードステーション J-SHIS

市の周辺には「活断層」と呼ばれる過去に繰り返し活動し、将来も活動することが推定される断層が確認されています。

地下の地盤に押し合う力や引っ張り合う力が加わることで、ひずみのエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときに、ある断層面を境に地盤がずれ動き、地震が起こります。

市の周辺では「山崎断層帯(主部南東部)」、「山崎断層帯(草谷断層)」によって甚大な被害が発生することが想定されています。

	地震名	マグニチュード	今後30年以内の地震発生確率
想定地震	山崎断層帯(主部南東部)	7.3程度	ほぼ0%~0.01%
	山崎断層帯(草谷断層)	6.7程度	ほぼ0%
参考	兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)	7.3	0.02~8% (発生直前における確率)

出典:「地震調査研究推進本部」(算定基準日 平成26年1月1日)

震度と想定される被害

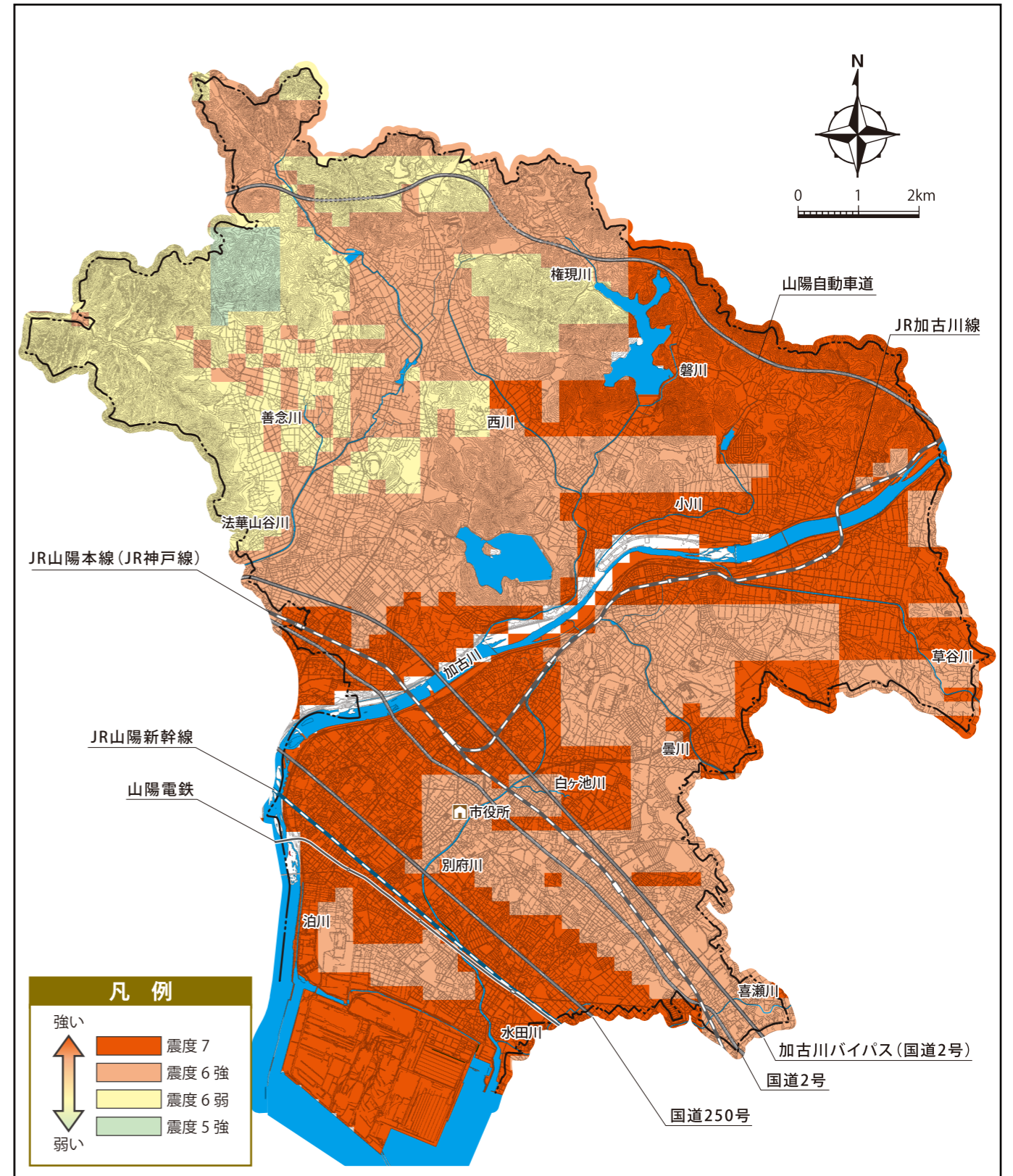
<p><b>震度 4</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ほとんどの人が驚く。</li> <li>● 電灯等のつり下げ物は大きく揺れる。</li> <li>● 座りの悪い置物が、倒れることがある。</li> </ul>	<p><b>震度 5弱</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。</li> <li>● 棚にある食器類や本が落ちることがある。</li> <li>● 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。</li> </ul>	<p><b>震度 5強</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 物につかまらなさと歩くことが難しい。</li> <li>● 棚にある食器類や本は落ちるものが増える。</li> <li>● 補強されていないブロック塀が崩れることがある。</li> </ul>
<p><b>震度 6弱</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 立っていることが困難になる。</li> <li>● 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。</li> </ul>	<p><b>震度 6強</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● はわないと動くことができない。</li> <li>● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが増える。</li> </ul>	<p><b>震度 7</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。</li> <li>● 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物は、倒れるものが増える。</li> </ul>

気象庁 震度階級関連解説表より作成

5 地震ハザードマップ(内陸活断層型地震)

山崎断層帯(主部南東部・草谷断層)地震の震度分布図

震度分布図: 兵庫県が平成21~22年に実施した地震被害想定(内陸型活断層)に基づいて作成



**凡例**

強い	震度 7
↑	震度 6強
↓	震度 6弱
弱い	震度 5強